公認会計士「研修出向制度」体験者リポート

vol.6

取材・文／髙橋光二　撮影／笹木 淳

新日本有限責任監査法人が2010年にスタートさせた、一般事業会社への会計士「研修出向制度」。本制度を活用し、自己成長に励む公認会計士たちのリアル・リポートをお届けする。

グローバル企業に身を置き、幅広い税務業務を習得中。この会社の力になりたい！

武田薬品工業株式会社 経理部（税務）
海老澤 淳●37歳

数字をつくる仕事にかかわりたいと応募

——まず、略歴からお教えください。

海老澤　大学の物理学科を卒業後、人工衛星に関する科学技術計算などを手がけていたソフトウェア会社に就職しました。3年間の勤務後、より高い収入を求めて外資系の医薬品営業支援システムの会社に転職し、その1年後から1年弱、公認会計士資格取得の勉強を開始しました。幸運にも第二次試験に一発合格し、新日本監査法人に入所したのです。

——公認会計士を目指した動機とは？

海老澤　友人から、「年収が高い」と聞いて（笑）、ならば目指してみようと。それと、SEの仕事に少し飽きてしまったという理由もありました。

——新日本監査法人では、どんな仕事を担当していたのでしょうか？

海老澤　私は、新日本監査法人の地区事務所である、愛媛県の松山事務所での採用となりました。松山では十数社のクライアントの監査を担当し、OJTをこなしつつ、1年目からインチャージの役目もおおせつかりました（笑）。初めて法定監査を受ける会社や、税法基準に基づく決算から会計原則に基づく決算に移行する会社などを担当できて、仕事は面白かったです。その後、大阪事務所に移り、金融チームで地銀や証券会社の監査を担当しました。勘定科目一つとっても独特なので、かなり勉強しましたね。

——出向制度に手を挙げたのは？

海老澤　イントラネットの掲示板で知り、飛びつきました。監査の仕事は、企業の財務諸表などを外からルールに照らしてチェックすることです。それも確かに面白いのですが、それだけではなく、一度事業会社の中に入って数字そのものをつくる仕事にかかわりたいと考えていたのです。

——出向先が武田薬品工業と聞いて、いかがでしたか？

海老澤　事前面談で、「税務でもいいか？」と聞かれましたが、大丈夫ですと答えました。武田薬品工業で税務をやるんだとわかった時は、ちょっとビビりました（笑）。経理部全体で50人体制という大規模で、超優良のグローバル企業ですからね。でも、やりがいは大きいと感じました。

大ベテランに囲まれ国際企業の税務を学ぶ日々

——具体的には、どのような仕事を担当されているのでしょうか？

海老澤　武田薬品工業単体の税務申告業務がメインです。それ以外に、移転価格やタックスヘイブンなど国際税務に関する業務にもかかわっています。また、社内各部門からの税務に関する質問への対応も多いです。

——税務はもちろん初体験ですよね。

海老澤　松山事務所時代に担当したクライアントは中小企業も多く、どの会社も会計より税務を重視していたのです。上司からも「会計士とはいえ、税務の話ができなければ相手にされない」と諭されていました。なので実は、公認会計士になってすぐ税務の勉強を始めていたのです。

——では、自信があったと。

海老澤　国内の税務業務に関しては多少の自信がありましたが、赴任してすぐにヘコみました（笑）。税務チームのメンバーは、この道20年以上というベテランばかりで、37歳の私が最も若輩です。特に国際税務に関する知識やスキルは自分とはレベルが違い過ぎました。着任後、1カ月で十数冊の専門書を読むなど、猛勉強するしかありませんでした。ちなみに、チームには私以外、公認会計士や税理士の資格保有者はいません。資格など、実務にはさほど関係ないと実感しています。

——武田に出向して、さらに税務を学ぶ日々を過ごしているのですね。

海老澤　当然ですが、税務は業績に密接にかかわってきます。従って、税務にどれだけ詳しくても、事業に精通していなくては話になりません。定期的なミーティングの場で報告される事業の情報を聞くことが、いい勉強になっています。例えばPE（恒久的施設）やVAT（付加価値税）など知ってはいましたが、武田薬品工業のようなグローバル企業にとっては大変重要なものであることを改めて認識しました。そういう意味でも、税務について幅広く学べる環境に身を置かせてもらっていると感謝しています。

——残りの出向期間でどんなことを身につけたいと考えていますか？

海老澤　より深い税務知識と、もうひとつは英語です。経理部でも海外拠点などとのやり取りが頻繁にあり、周りの部員はごく普通に英語でコミュニケーションしています。私は、メールでの対応はできても、電話では満足に話せません。出向期間中に追いつこうと猛勉強中です。そして、ここでの得難い経験を少しも無駄にせず、よりクライアントの立場に立てる公認会計士になりたいと考えています。

——最後に、後進へのメッセージを。

海老澤　ほとんどの上場企業が国際的な事業を展開しているので、今後、出向を望むなら、英語の勉強を始めておくべきです。また、事業会社に出向すると、ビジネスを中から見られることに加え、同業他社との横のつながりも生まれます。ビジネスパーソンとしての幅を広げてくれる、素晴らしい機会だと思います。

Jun Ebisawa Profile

1974年8月24日	大阪府堺市生まれ
1998年3月	関西学院大学理学部卒業
1998年4月	三菱スペース・ソフトウェア株式会社入社
2001年7月	デンドライトジャパン株式会社入社
2003年10月	公認会計士第二次試験合格 新日本監査法人入所
2007年3月	論文式試験合格
2010年8月	武田薬品工業株式会社へ出向

家族構成＝妻

出向受け入れ企業の声

異業種で活躍した経験を取り入れ自社の守備範囲が広がる効果も

武田薬品工業株式会社
経理部長 コーポレート・オフィサー
髙原 宏氏

当社は、2008年にミレニアム・ファーマシューティカルズ社を、2011年にはナイコメッド社を買収するなど、大型のM&Aを手がけ、対応国が28カ国から一気に70カ国に広がった。もちろん、今もグローバルの事業展開は加速している。

それに伴い経理業務も拡大し、即戦力として活躍してくれる優秀な人材を求めていた。もう一つ、国際化の進展とともにダイバーシティ化を推進し、多様なキャリア人材を採用して、変化に強い組織づくりを行うことが全社の方針となった。そんなタイミングで研修出向制度ができたことを知り、会計知識を備えたプロフェッショナル人材を迎えたいとお願いしたわけだ。

海老澤君には、国内の税務申告の責任者になってもらっているほか、国際税務もサポートしてくれているが、期待どおりの活躍をしてくれている。職場の評判もよく、安心だ。異業界で活躍した経験を取り入れることで、当社の守備範囲が広がる効果も生まれると思う。